

平成 25 年度 樟蔭中学校・高等学校 学校評価

1 めざす学校像

「高い知性」と「豊かな情操」を兼ね備えた、社会に貢献できる女性の育成をめざす

- 1 自ら学び、自ら考える力を養う総合的な学力を育む
- 2 自らの興味・関心を深め、能力・適性をさらに伸ばし、将来の目標を達成する力を育む
- 3 自らの判断に基づいた行動ができる自立性と、社会生活や学校生活における規範意識の涵養に努めるとともに、様々な教育活動を通して豊かな人間性を育む

2 中期的目標

1 豊かな人間性の育成

- (1) 「望ましい態度・マナー」や「身だしなみ・振る舞い」などの女子教育の充実
- (2) 適切なキャリア教育や日本文化に係る学習などの教養教育の充実
- (3) 学校行事や部活動を通じた望ましい人間関係づくり

2 進路の保証

- (1) 各コースの目標に応じた学力の定着と育成
- (2) 管理栄養士や幼稚園教諭などの資格取得をめざした大阪樟蔭女子大学との連携・接続

3 教員力の向上

- (1) 授業力の向上
- (2) 教員資質の向上
- (3) 家庭や地域との連携の強化

4 入学生の確保

- (1) 広報室を中心とした積極的な広報活動
- (2) 大学広報との連携の強化

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析	学校評価委員会からの意見（平成 26 年 3 月 28 日）
<p>○生徒[平成 25 年 7 月実施] 学校生活や家庭での状況や意識について、約 40 項目についてのアンケートを行った。そのうち、肯定的な回答が特に多いもの（概ね 8 割以上）の一部を挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の雰囲気は良い ・ルールやマナーを守り、節度ある行動がとれている ・学校へ行くのは楽しい ・今のクラスが気に入っている ・学校内にいろんなことを話せる友人がいる ・家の人とはよく話をする <p>○保護者[平成 25 年 9 月実施] 学校の様々な取り組みについての満足度調査を実施した。その結果、全体的に満足度は高いもの（概ね 8 割）となっていた。また、学習指導については高校が、また生活指導については中学校がより高い評価であった。</p> <p>○教職員[平成 25 年 11 月実施] 現在の取り組みについて、約 100 項目にわたる細かなアンケートを実施した。生活指導や学校行事に対する自己評価は高いものであったが、学習面での取り組みや組織の在り方については工夫・改善すべき点が明確になった。</p> <p>【分析～取り組むべき課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業方法の工夫や内容の精選など、授業の質のさらなる向上 ・学習面をはじめ、自立した女性を育成するための様々な取り組みの点検と改善 ・生徒や保護者のニーズを踏まえた新しいコース設置の検討 ・迅速でより機能的な運営を可能とする教員組織の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪樟蔭女子大への内部進学をどのように充実させるか。児童教育や健康栄養のように区分を明確にさせることが重要では。これからは英語教育センターを活用して、英語教育を中心とした高大一体化の方向が必要なのでは。 ・留学を謳う外国語系学部を充実させることで、内部進学が分厚くなっていくと思う。 ・女子大への内部進学を確保しながら、外部の大学への進学も進めていくことは高大併設である私学の共通の課題。ポイントを絞って議論することも。 ・学校の強みが何であるか教員の共通認識が重要。 ・現在、学校が進めている教育 ICT 化やアクティブラーニングのような学習方法の工夫などに積極的に取り組んで欲しい。 ・生徒減少の中、健康栄養や児童教育などのような多様化路線が望ましい。その点から、平成 27 年度から中学校に総合進学コースを作る方向は間違っていない。 ・多くの生徒を集めている他の私学は実学的なコース設定、いわゆる総合選択制を行っている。これも多様化路線の一つ。 ・中学入試については読売新聞に掲載されている記事のように、信頼感と安全、楽しいということに対する保護者の気持ちが強い。この観点から、点検することも必要。 ・樟蔭は学校の魅力について多くの材料があり、またその意識が高いと思う。これからは、例えばマスコミの力をうまく利用するなどのほか、発信力を教職員全体で身に付け、外向きの発信にさらに力を入れると、学校の良さが認識され、行きたい学校としてしっかりと定着すると思う。

3 平成 25 年度の取組内容及び自己評価

	平成 25 年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 豊かな人間性の育成	<p>(1)女子教育の充実 ア. 態度・マナーや身だしなみ・振る舞い等に係る教育を実践する</p> <p>(2)教養教育の充実 イ. キャリア教育を推進する ウ. 茶・華道などの日本文化の学習を推進する エ. 読書活動を推進する</p> <p>(3)望ましい人間関係づくり オ. 学校行事や部活動を通じた望ましい人間関係づくりを図る</p>	<p>ア. 授業や集会、登下校指導等における注意や指導</p> <p>イ. 進路指導部と各学年の連携のもと、中学1年から高校3年までの系統的なキャリア教育を推進</p> <p>ウ. 高校2年を中心にした茶・華道やテーブルマナー実習</p> <p>エ. 図書館担当による図書館活用と読書習慣に係る啓発活動</p> <p>オ. 級友やクラブにおける異年齢の生徒との関わりによる社会的な自立</p>	<p>ア. イ. オ. 生徒対象のアンケートにおける該当項目の肯定的回答の割合</p> <p>ウ. 実施の有無と結果</p> <p>エ. 貸出した本の冊数</p>	<p>ア. 「ルール・マナーを守り、節度ある行動がとれている」80.1%</p> <p>イ. 「進路に係る取り組みに満足している」53.2%</p> <p>ウ. 高校2年進学コース全員週2時間（茶道と華道を半期ずつ） テーブルマナーは高校2年生全員</p> <p>エ. 貸出冊数 9674冊（中高ほぼ同数） 貸出DVD1827本、貸出iPad1564人</p> <p>オ. 「学校内に、いろんなことを話せる友人がいる」86.4%</p>
2 進路の保証	<p>(1)目標に応じた学力の定着と育成 ア. 高校・特進コース（中高一貫6年コース）は、国公立大・難関私立大への進学をめざす イ. 高校・進学コース（3年コース）は、本女子大の特別推薦及び他大学の指定校推薦等での進学をめざす ウ. 健康栄養コース・児童教育コースは、高大7年による本女子大の特別推薦での進学をめざす エ. 中学・身体表現コースでは、クラブと勉強の両立を図り、本高校への進学をめざす</p> <p>(2)大阪樟蔭女子大との連携・接続 オ. 管理栄養士や栄養士、幼稚園教諭等の資格取得をめざした高大連携・接続を図る</p>	<p>ア. 担任を中心にしたスタッフによる的確なアドバイスや補習の充実により、国公立大学約10名、難関私立大学約30名の合格を実現</p> <p>イ. 学年と進路指導部の連携のもと、進路希望の実現と本女子大学への約90名の進学を実現</p> <p>ウ. コース担当と進路指導部、本女子大学学科とのきめ細かな連携</p> <p>エ. 担任やコース担当との連携による進路希望の実現</p> <p>オ. 学年やコース担当、進路指導部等と本女子大学との連携を強化</p>	<p>ア. それぞれの項目で掲げた合格者数</p> <p>イ. ウ. エ. それぞれの項目で掲げた進学者数</p> <p>オ. 実施の有無と結果</p>	<p>ア. 国公立 10名、関関同立 28名 産近甲龍 34名 など</p> <p>イ. 大阪樟蔭女子大学 106名</p> <p>ウ. 健康栄養コースの内部進学 16名 （健康栄養学科 10名） 児童教育コースの内部進学 25名 （児童学部 25名）</p> <p>エ. 身体表現コースの内部進学 15名</p> <p>オ. 進路指導部主催 樟蔭女子大学部学科説明会 （5月高校3年教員対象、11月高校2年教員対象） 樟蔭女子大学との情報交換会 （7月進路指導部・高校3年教員と大学各学科教員） 教務部による進学講座に係る連携 コース主任による各学科との連携</p>
3 教員力の向上	<p>(1)授業力の向上 ア. 生徒による授業アンケートを実施する イ. 管理職による授業観察を行う</p> <p>(2)教員資質の向上 ウ. 一人一人が目標を設定し、その達成をめざす</p> <p>(3)家庭や地域との連携強化 エ. 担任と家庭の連絡を密にすることにより、共に育てる思いを共有し、生徒をしっかりサポートしていく オ. クラブ顧問や生徒指導の担当と地域の関係部署との連携を強化する</p>	<p>ア. 生徒によるアンケートの結果の分析による授業の改善</p> <p>イ. 授業観察後のアドバイス</p> <p>ウ. 目標設定シートをもとに、管理職との面談の実施</p> <p>エ. 担任を中心とした家庭との連絡や懇談による情報の共有と連携を強化</p> <p>オ. 関係する教員と地域との連携を積極的に推進</p>	<p>ア. エ. 該当するアンケート項目における肯定的な回答の割合</p> <p>イ. ウ. オ. 実施の有無と結果</p>	<p>ア. 「授業はわかりやすい」69.0%</p> <p>イ. 授業観察実施 約60%</p> <p>ウ. 目標設定 100%</p> <p>エ. 「学校から保護者への諸連絡は、スムーズに行われている」（卒業時の保護者アンケート）96.0%</p> <p>オ. 東大阪ふれあい祭り（吹奏楽部・バトン部・ダンス部）、東大阪文化のつどい（中2身体表現コース）、東大阪市民文化芸術祭（新体操部・ダンス部・バトン部）、東日本復興支援コンサート（軽音楽部）、東大阪消防署出初式（吹奏楽部）など多数</p>
4 入学生確保	<p>(1)入試広報室を中心とした積極的な広報活動 ア. 塾や中学校への広報を充実する イ. 教職員への情報提供に努める ウ. ポスターやチラシ、学校案内などの点検と改善を進める エ. 学校説明会やオープンスクールのさらなる工夫をする</p> <p>(2)大学広報との連携強化 オ. 大学広報への情報提供と共有に努める</p> <p>(3)家庭・地域との連携強化 カ. 連携の方法を検討する</p>	<p>ア. 入学実績のある塾や中学校への訪問だけでなく、新たな処への訪問拡大</p> <p>イ. 管理職会議や職員会議における進捗状況の報告</p> <p>ウ. 学校の現状・魅力がさらに伝わるように、関係教員を中心にした検討と改良</p> <p>エ. より多くの教職員が関われる内容と方法を検討</p> <p>オ. 学園広報として、中高広報と大学広報のあり方を再検討・改良</p> <p>カ. 同窓会やPTAとの関わりを点検し、連携の方法を検討</p>	<p>ア. 訪問した件数</p> <p>イ. ウ. エ. オ. カ. 実施の有無と結果</p>	<p>ア. 塾訪問件数 約1200件 中学校訪問件数 約850件</p> <p>イ. 適宜報告</p> <p>ウ. イベント毎にチラシを作成・配布 （中学校6枚、高校5枚） ポスターと学校案内を試作を繰り返しながら年1回作成・配布</p> <p>エ. 学校全体の行事として、教職員だけではなく生徒も関わる内容で実施</p> <p>オ. 高大が連携する行事に向け、担当者間の情報交換を実施</p> <p>カ. PTA 役員との協議により、茶話会などの新たな企画を実施</p>